

小説家中村航さん、出身地大垣で講演

小説家としての足跡や信条についても詳述した中村航さん＝大垣市万石、大垣フォーラムホテル



250人に地元愛語る

大垣市出身の小説家中村航さん(49)の講演会が同市万石の大垣フォーラムホテルで開かれ、故郷への愛情や今後の目標を語った。(古家政徳)

「古里思いながら執筆」

大垣西濃信用金庫が「だいしん文化講演会」と題して開き、約250人が聴講した。中村さんは27歳で会社勤めの傍ら小説を書き始めた原点について、小学校時代に先生から「文章が面白い」と褒められたことや、読書感想文のコンクール受賞が大きな自信になったことを披露。さらに夏休みの自由研究で感想文を書いた児童文学作家の作品を最近読み直すと、自分の短編と文体が似ていることに気づいたといい、「子どものころの経験が血肉となって残っていたのか、と驚かされた」と話した。

「自分にとっての原風景は大垣であり西濃。書くときはいつも考えている」と地元愛を語った。今後について「小説は売れないが、物語自体の需要は高まっている。自分は好奇心は強いタイプ。『小説家なのになんでそんなことやるの』と驚かれるようなことをやっ

ていきたい」と、携わり始めた作詞業のほか、新人小説家のプロデュースへの意欲も示していた。